

SPE日本支部長ご挨拶 / SPE日本支部の今とこれから

プラスチック材料の功罪

プラスチック材料は私たちの身の回りで幅広く使われ、利便性と安全性を支える重要な役割を担っています。自動車や航空機の軽量化による燃費改善、医療分野での衛生的で使い捨て可能な器具の普及、さらには食品保存や流通網の効率化など、そのメリットは数え切れません。プラスチック材料が私たちの生活の質を高め、便利な現代社会の実現に寄与してきたことは紛れもない事実でしょう。一方で、プラスチック材料が環境問題の象徴として厳しい視線に晒されていることも否定できません。海洋ごみの問題やマイクロプラスチックによる生態系への影響は国際的な課題となっており、高いレベルで「便利さ」と「環境負荷」のバランス点を見つけることが求められています。技術者・研究者には、この「功罪の両面性」を直視しつつ、新しい素材開発やリサイクル技術の高度化、さらには循環型社会に資するシステムの構築が求められています。SPE日本支部はその挑戦を後押し、学術と産業・工業の橋渡し役を果たしていきたいと考えています。



齊藤卓志
SPE 日本支部長

講演会への期待

そのような中で、SPE日本支部の講演会の価値と意義をあらためてお伝えしたいと思います。すなわち、企画メンバーが単に時々話題を取り上げるだけでなく、講演の内容を吟味し、運営委員会での相談を経たうえで準備を進める、という手間をかけているからこそ、優れた内容の講演会が実施できていると考えます。実際、SPE日本支部の講演会では、世界/社会がプラスチック材料をどのように捉えているかを冷静に見つめ、今後どのように活かしていくべきか、さらに言えば、実際のビジネスや価値創造につなげるかという視点に立った話題が多く見られます。これらは、知識の共有にとどまらず、産業界に実効的な示唆を与える可能性があると思っています。このような活動の積み重ねがSPE日本支部の存在意義であり、講演会にご参加いただける方々へのメリット、ひいては私たちの活動への理解と信頼につながると考えています。

国際環境と日本メーカーの苦労

私たちを取り巻く経済の環境、産業の状況は年々、厳しさを増していると思います。いわゆる「トランプ関税」は、多くの日本メーカーにとって多大な影響があるでしょう。自動車はもちろんのこと、化学製品をはじめとする輸出産業において、価格競争力の低下やサプライチェーンの混乱は避けられないでしょうし、経営判断においても難しい選択が迫られると思います。このような中にあっても日本の製造業は粘り強く、品質と技術力を武器に世界市場での信頼を維持しようと努力してきましたし、その姿勢は今後も変わらないでしょう。SPE日本支部としても、国際的な技術動向に関する講演会や情報発信を通じて、日本の技術者・研究者を少しでも支える役割を担っていければと考えています。

新しい取り組み～ブログと連載講座～

SPE日本支部では、年間6回行われる運営委員会での検討、意見交換をととして、支部活動の充実と活性化を図っています。一例として、2024年度にはプラスチック材料に特化した支部独自のブログを立ち上げ、皆さまの役にたつ知見や情報、研究や業界動向のトピックスを発信しています。また、2025年度より業界を代表する月間技術雑誌『プラスチックス』に、SPE日本支部として連載講座を寄稿することになりました。これらの取り組みは、会員の知見を社会へ還元し、業界全体の発展につながるもので、これまでの講演会とは少し違った切り口から、SPE日本支部の存在価値を高めることになると思っています。

将来ビジョン～次世代育成と国際ネットワーク～

あちこちの学協会でも広く認識されているように、今後10年あるいは20年にわたって学協会の活動に賛同し、協力してもらえらる若手研究者・技術者とのつながりを持つことは極めて重要です。SPE日本の会員一人一人がそのことを認識し、例えば講演会へ参加勧誘といったアクションや、支部としてSNSを活用した情報発信を行っていくことが必要でしょう。また、米国に本拠を置くSPEの日本支部として、前述の講演会やブログをととして、国際的な話題や動向を共有するだけでなく日本発の技術や発想を対外的に発信していくことも考えられます。

おわりに

プラスチック材料がもたらす利便性と環境負荷、そのバランス点の探索は容易ではないからこそ、学術と産業・工業の垣根を超えた知の共有が大切だと思われます。SPE日本支部は、これからも会員の皆さまとプラスチック材料に関する知識と情報を共有し、学術と産業・工業の橋渡し役であり続けたいと願っています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

2024年度 日本支部活動

多くの講演者様のご協力もあり、年間で6回の講演会を実施いたしました

2024年8月9日開催 27名参加

ANTEC紹介並びにサステナブル社会貢献技術への取り組み～3DP & リサイクル

射出成形CAEのための非等温結晶化挙動の実用化モデルの提案

セイロジャパン

吉井正樹

常識を打ち破る精密3D造形技術 & 最終製品への応用

BMF Japan

田村明男

リサイクル材料を使用した、3Dプリントとアップサイクル

エス.ラボ

柚山精一

PETケミカルリサイクルから考えるサーキュラーエコノミー

JEPLAN

石津縁

マイクロ波化学のケミカルリサイクル戦略

マイクロ波化学

木谷径治

2024年10月10日開催 41名参加

プラスチックのマテリアル・ケミカルリサイクル技術の進化

東洋インキの軟包装及びプラスチック成形品の剥離・脱墨マテリアルリサイクル技術

東洋インキ

原子詩奈

ゼオライト触媒による廃プラスチックのケミカルリサイクル

室蘭工業大学

神田康晴

ポリエステル複合材料のケミカルリサイクルに向けた取り組み

産業技術総合研究所

田中真司

二軸押出機を用いたプラスチックリサイクル技術

日本製鋼所

小柴拓也

2024年12月23日開催 41名参加

ミズノ（株）見学会・講演会～スポーツメーカーの最新の研究を知る～

シューズソールを題材にしたトライボロジーに関する研究

ミズノ

笹森哲弥

スポーツにおけるCAE技術の活用

ミズノ

浦田一生

独自の人工筋肉ギアを用いた回旋運動拡張スーツ開発による人間拡張

ミズノ

酒井隆太

2025年2月21日開催 26名参加

第18回 NANO/SPE 合同講演会

高機能部材の開発とDX活用

産業技術総合研究所

栗原一真

押出機と射出成形機へのAI活用の事例紹介

日本製鋼所

富山秀樹

樹脂成形の条件最適化に向けたCAEサロゲートモデルの応用

旭化成

貫井隆行

高分子材料開発における自律型実験とポリマーインフォマティクス

物質・材料研究機構

内藤昌信

2025年4月18日開催 38名参加

持続可能な社会に向けた再生プラスチックと電気自動車の材料動向と技術

再生プラスチックの市場拡大に向けた課題と今後の方向性 - 欧州規制動向を踏まえて -

三菱総合研究所

新井理恵

豊田通商の自動車における資源循環の取り組みとプラニクのCar to Car樹脂リサイクルの取り組み

プラニク

山下晴道

水素タンク開発を通じた水素社会への貢献

豊田合成

亀田宜暁

電動車向け薄型高放熱パワーモジュールの開発

住友ベークライト

西川敦准

2025年6月5日開催 29名参加

人にやさしい・環境にやさしいプラスチックのアプリケーション - ウェアラブル・人体計測・環境調和の事例紹介 -

非接触インピーダンス測定技術：シートベルトセンサを中心とした応用事例紹介

POSH WELLNESS LABORATORY

根武谷吾

多点式機能的電気刺激リハビリテーションシステムのための柔軟樹脂素材電極

電気通信大学

杉正夫

屋内で屋外の開放感・心地よさを！ 人の感性に訴える照明器具

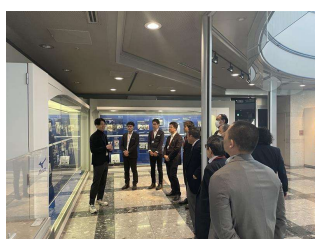
三菱電機照明

金山崇 末留克徳

ウェット界面を介した生体内化学成分計測技術の開発

山形大学

長峯邦明



2024年度 役員(2024/7-2025/6)

役職	氏名	所属	役職	氏名	所属
支部長	齊藤 卓志	東京科学大学	企画	佐藤 公俊	国士舘大学
副支部長/会員担当	仙波 健	京都市産業技術研究所	企画	吉田 賢一	積水化成品工業
副支部長	加藤 真理子	大阪ガスケミカル	企画	高橋 由紀子	東洋製罐GH
幹事	小林 豊	山形大学	企画	高崎 緑	横浜国立大学
幹事補佐	西辻 祥太郎	山形大学	企画	小島 英司	豊田合成
カウンセラー/広報NL担当	澤 周作	テクノベル	企画	金藤 芳典	三菱電機
会計担当	前田 治彦	住友ベークライト	企画	岡田 祐二	旭化成
WEB担当	樋口 悠	住友化学	企画	戸澤 啓一	日精樹脂工業
企画	伊藤 浩志	山形大学	監事	馬場 文明	三菱電機
企画	金 容薫	古河電気工業	監事	葛良 忠彦	包装科学研究所
企画	曽根 篤	日本ゼオン	相談役	伊澤 慎一	ナノ構造ポリマー研究会

2024年度 決算報告 (2024/7-2025/6)

損益計算書			
収支の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
会費収入	860,000	事業費支出	806,929
支部会員年会費	150,000	管理費支出	494,500
支部会井年会費前受金	710,000	会議費	23,560
事業収入/セミナー	873,780	通信費	1,110
利息収入	33	広告宣伝費	465,800
		雑費	4,030
小計	1,735,714	小計	1,301,429
		今期収支差額	434,285
前期繰越金	3,844,878	次期繰越金	4,279,163

SPE 米国本部の活動について

SPE 2025
All EVENT

SPE 米国本部 2025年度のイベントの最新情報を確認できます。
多岐にわたる分野において、様々なイベントを開催しております。
<https://www.4spe.org/i4a/calendar/?pageid=3277&showTitle=1>



SPE が主催するANTEC 2026 が、2025 年3 月9 日から12 日まで
米国ピッツバーグにて開催されます。ANTEC 2026 では、
産業や学術分野における研究成果が発表されます。
<https://www.4spe.org/i4a/pages/index.cfm?pageid=8878#gsc.tab=0>